



日本国際教育学会

JIES NEWSLETTER

January 2015 No.26

ニューズレターダイジェスト

- 学会長挨拶
- 第 25 回研究大会報告
- 大会収支報告
- 第 25 回総会議事録
- 決算報告と予算案
- 2014-2015 年度役員一覧
- 事務局だより
- 紀要『国際教育』第 21 号原稿募集
- 2015 年春季研究会のお知らせ
- 第 26 回研究大会のお知らせ
- 2015 Conference Information



第 25 回大会 公開シンポジウム
(2014 年 9 月 13 日 宇都宮大学)

学会長挨拶

日本国際教育学会第 25 回大会を終えて 一創立 25 周年の節目に一

会長 岩崎 正吾 (早稲田大学)

日本国際教育学会は 2014 年に創立 25 年という記念すべき節目を迎えました。1990 年 8 月に設立されて以来、四半世紀もの間、グローバル化の進展に伴う国際情勢の変化や新公共管理政策（成果主義）による大学改革の嵐が吹き荒ぶ直中であって、困難を乗り越え、国際教育研究に果敢に取り組み、人間社会と切り結ぶ教育研究を多面的に深化させてこられた会員の皆様に敬意を表すると共に喜びを分かち合いたいと存じます。

この記念すべき時に当たって、先の 2014 年 9 月 13 日（土）と 14 日（日）に、宇都宮大学で開催された第 25 回大会が大きな成功を収めましたことは何よりも増して重要な出来事

であったと思念するところです。開催に当たり大変ご尽力頂きました廣瀬隆人大会実行委員長、若園雄志郎大会事務局長及び実行委員の方々をはじめとした関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、まだ真夏の余韻冷めやらぬ宇都宮大学の峰キャンパスに全国各地からご参加下さいました会員各位に対しまして深く感謝申し上げます。

今大会では、「先住民族の文化復興と教育」というテーマで公開シンポジウムが開催されました。文化人類学（渥美一弥・自治医科大学教授）や開発教育（湯本浩之・宇都宮大学教授）の専門家によって先住民族問題に照明が当てられ、日本におけるアイヌの言語・文化復興の可能性について真摯な議論が展開されました。また、課題研究では、第23回大会及び第24回大会からの継続研究である「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究」の第3回目として、メキシコと台湾における権利獲得運動の到達点と課題が取り上げられ、斉藤泰雄会員の司会の下、山崎直也、米村明夫、楊武勲の各会員による研究発表が行われました。自由研究も4つの分科会を通して19本の発表があり、日本国際教育学会の歩みに大きな足跡を残しました。

私も先住民族の教育権保障という研究に携わっているのですが、教育権保障にとって言語もしくは言葉への権利の問題はきわめて重要であると考えています。というのも、文化の伝達が教育であるならば、教育は伝達手段としての何らかの言語を必要とするだけでなく、言語は文化そのものであり、言語の習得自体が文化の継承（伝達）、即ち、教育そのものだからです。ここには、教育と言語との切っても切れない関係、教育と言語における目的・手段の相互転換関係があります。つまり、言語を手段として教育（目的）が達成され、教育を手段として言語（目的）は習得されるという関係です。このような意味で、言語は二重の意味で人間を形成します。手段（道具）として人間の形成に奉仕し、目的（文化の伝達）として人間を形成するのです。言語と教育権保障との関係を言語的人権という視座から研究することの重要性は強調してもし過ぎることはないと思います。

私はこの度第二期目の会長を仰せつかり、責任の重大さを痛感しています。この間、理事や役員のあり方、選挙規程や大会の開催方法の見直しなど、学会改革に取り組んで参りましたが、先輩諸氏の思いを受け継ぎ、日本国際教育学会をいっそう発展させるべく、もっと努力しなければならないと気を引き締めているところです。第一期目と同様に第二期目におきましても、会員の皆様のいっそうのお力添えを頂きますようお願い申し上げます次第です。

第25回大会報告

1. 日本国際教育学会 第25回大会（2014年秋季研究大会）報告

大会実行委員長 廣瀬 隆人（宇都宮大学）

日本国際教育学会第25回大会は、2014年9月13日（土）・14日（日）に栃木県宇都宮市の宇都宮大学峰キャンパスを会場として開催されました。本学は教育・国際・農・工学部の4学部で構成されており、また学生数は4000人程度と、決して大きな大学ではありませんが、多くの会員・非会員の皆様のご参加をいただくことができ、感謝申し上げます。

さて、今回の大会では初日に公開シンポジウムおよび11件の自由研究発表がありました。公開シンポジウムでは「先住民族の文化復興と教育」をテーマとして自治医科大学の渥美一弥先生および本学の湯本浩之先生をお招きいたしました。渥美先生からは「文化・言語復興運動の世代交代 カナダ・サーニッチにおける文化・言語復興運動の新しい世代につ



課題研究「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究(3) メキシコ・台湾における権利獲得運動の到達点と課題」

メキシコ・台湾における権利獲得運動の到達点と課題」として、楊武勳会員（台湾・国立暨南国際大学）・山崎直也会員（国際教養大学）・米村明夫（アジア経済研究所）会員の3名による報告が行われました。楊会員は「台湾原住民族の権利獲得運動の到達点と課題 2000年代以降の状況を中心に」として2000年代以降の台湾における原住民の権利獲得運動について、山崎会員は「台湾原住民族教育の新動向 部落学校設立十年計画と排湾族大武山部落学校」として同会員が現地調査を行った排湾族大武山部落学校の事例報告および原住民族の教育権獲得運動と原住民族教育政策の展開について、米村会員は「メキシコの先住民族運動の教育における到達点と課題」として高等学校・中学校などのプロジェクトを通じたインターカルチュラルリズムを分析し、先住民族運動に見られる教育について、それぞれ議論が展開されました。なお、自由研究発表のうち、玉井康之会員（北海道教育大学）・牛渡淳会員（仙台白百合大学）・田中真奈美会員（東京未来大学）・牛渡亮会員（東北大学大学院）による共同発表「アラスカの先住民族教育政策の特徴 Cultural Standards の分析」もこの課題研究とテーマが共通するものであり、本大会における先住民族の教育に関する議論は非常に実りのあるものであったといえるでしょう。

最後に、今回大会の開催をお引き受けするにあたり、大会実行委員会としての十分なサポートができなかった点もございましたが、理事および会員各位のご支援、そして本学教職員の協力を得て、無事大会を行えましたことをこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

2. 秋季大会の感想：日本国際教育学会第25回大会に参加して

張 鵬（早稲田大学大学院）

2014年9月13日～14日、宇都宮大学で開催された日本国際教育学会2014年度秋季大会の参加および発表をさせて頂きまして、とても貴重な経験になっておりました。

日本、海外からの研究者の優れた研究発表をお聞きまして、たくさんの分野の知見に触れることができました。多様な視角からの考え方も御座いまして、自分自身の研究に大きな啓発になりました。

そして、自分と似ている研究をなされている若手研究者も来られており、お互いに意見交換をしたり、励まされたりしていました。優秀な研究者から良性刺激を受けまして、自分の研究分野に対する理解をより深めることができました。

研究ということは、やはり一人で頑張るのではなく、各分野の知識を吸収しながら、より大きな視野から考えることが不可欠だと思っております。今回の大会は教育研究者にとって、非常に重要な意見交流、情報交換の場となりました。

また、公開シンポジウム「先住民族の文化復興と教育」と課題研究「先住民族の教育権保障に関する国際比較研究」をお聞きました。中国にも55の少数民族があり、人口も1億以上という巨大な数字であり、少数民族教育問題は社会問題、発展問題などにも関連しています。以上の研究発表から、教育の平等性を再認識しており、先住民族教育の必要性と緊迫性が感じられました。非常にやり甲斐のある研究だと思い、教育というのは本当に偉大な事業だと考えております。

今回の大会には幅広い分野の最新の研究成果が多数あり、内容も濃く、大変有意義な研究大会となりました。そして、大会実行委員会の方々には非常に親切に案内、対応して頂きまして、この場を借りて、あらためて御礼を申し上げたいと思います。本当に素晴らしい大会でした。

加藤 ジオランデル (宇都宮大学大学院)

私は大会の運営補助として今大会に参加させていただきました。運営側として大会を進めていきながらも、研究発表を聴く機会に恵まれたことに感謝いたします。

今大会で私が抱いた問いは、「先住民族問題を解決するには、誰にどのようなアプローチをしていけばいいのか」という問いです。この問いは、初日の公開シンポジウム「先住民族の文化復興と教育」における湯本教授の研究発表から得ました。先住民族問題を地域課題として発見し、地域住民が自ら考え、判断し、社会の中で主体的に行動することが困難な現状を知ったからです。たしかに、教室という非日常空間の中で、先住民族でない教師が先住民族問題について訴えたとして、どれだけ子どもや地域住民の問題意識が高まるのでしょうか。問題に自ら関わっていかうとするには、自分が生きている世界と問題との関わりの実感があってこそだと思えます。

渥美教授の研究発表からは、この問いを解くヒントをいただきました。カナダにおける先住民「サーニッチ」の文化・言語復興の過程から分かることは、精神の継承が先住民族問題を根本から解決していくということです。つまり、先人が歩んだ歴史を、先人が味わった屈辱を、先人の想いを次世代にいかにかに受け継いでいくかが重要なのです。精神を受け継いだ人間は、その精神のもと生活をしていきます。地域を越えて、人と出会います。そして、サーニッチの精神をもつ者とそうでない者が日常生活で触れ合うこととなります。日常の中でサーニッチとつながりを持つことで、多くの人々は自分が生きている世界と先住民族問題との関わりを感じられるようになるでしょう。したがって、「先住民族問題の当事者にいかにかに先人の精神を受け継いでいくか」が今後の課題になると考えます。さらに、サーニッチの精神とは何か？精神を受け継ぐとはどういうことなのか？どのように受け継ぐのか？などの問いが浮かび上がってきます。

問いに生き埋めにされそうになりながらも、私は日々の大学院生活を楽しんでいます。その理由は、多くの研究者たちが問いに挑み続けていることが励みになっているからです。今大会に参加し、問いに挑み続けている先生方の姿勢を間近に感じる事ができました。これからも情熱をもって研究に励んでいきます。

3. 第 25 回大会収支報告

収入		
項目	金額	備考
大会補助費	160,000	150,000 (学会) + 10,000 (廣瀬先生)
大会参加費	156,000	3,000 円×52 名
懇親会費	112,000	4,000 円×28 名
弁当代	12,300	700 円×9 個 + 600 円×10 個
広告料	16,000	8,000×2 件
合計	456,300	

支出		
項目	金額	備考
印刷代	122,688	プログラム、発表要旨集録
送料	44,428	返送用ハガキ含む
謝礼・アルバイト代等	78,000	
懇親会費・弁当代	164,542	控室用お茶菓子含む
備品・消耗品	8,312	文房具等
その他	54,364	教室使用料、参加費返金
合計	472,982	
差額	-16,682	

4. 日本国際教育学会第 25 回総会議事録

日時：2014 年 9 月 13 日 (土) 16:40～17:50
場所：宇都宮大学峰キャンパス 5 号館 B 棟 1121 教室
記録：山崎直也

開会の辞

山崎直也事務局長より、開会の辞があり、大会開催校等に対する謝辞があった。出席者、委任状の合計が過半数に達せず（出席者 33 名、委任状 28 通）、日本国際教育学会規則第 5 条第 2 項に定める総会開催要件を満たしていないため、同第 3 項に基づき本総会の決議を仮決議とし、総会終了後 1 か月以内に異議が出されない場合は本決議とみなすことが説明された。

会場校挨拶

廣瀬隆人第 25 回大会実行委員長より挨拶があり、参加者に対する謝辞等があった。

会長挨拶

岩崎正吾会長より挨拶があり、大会開催校及び大会実行委員、参加者に感謝の意が述べられた。

議長団選出

自薦・他薦が無かったため、事務局より呉世蓮会員、高山和孝会員が推薦され、承認された。

1. 報告・承認・決議事項

1. 2013年度（2013年8月1日～2014年7月31日）会務報告

(1) 学会（会員数）の現況

金塚基第23-24期事務局長より、資料1に基づき、2014年9月13日現在の会員数が194名（名誉理事を含む、2013年度末除籍対象者を除く）であることが報告された。

(2) 2013年度活動報告

金塚基第23-24期事務局長より、資料1に基づき、2013年度の学会の活動が報告された。

(3) 2013年度決算報告

金塚基第23-24期事務局長より、資料1に基づき、2013年度の会計決算の報告がなされた。

2. 2013年度会計監査報告

桑原清第23-24期会計監査より、資料1に基づき、2014年9月2日から7日にかけて会計監査がなされ、2013年度会計決算が適正であると確認された旨、報告がなされた。

3. 各種委員会報告

(1) 紀要編集委員会報告

山崎直也第12期紀要編集委員長より、資料2に基づき、『国際教育』第20号の編集作業について報告がなされた。投稿要領の掲載時期を早めたにもかかわらず、前号に比べ投稿数が減少し、研究論文の掲載が1本にとどまったことが説明され、第21号への積極的な投稿が呼びかけられた。

(2) 学会賞選考委員会報告

江原裕美第23-24期学会賞選考委員長より、口頭で本大会における賞の授与がないこと、2013年8月1日から2015年7月31日刊行の研究業績を対象に選考を行い、その結果を第26回大会総会で報告することが説明された。

(3) 紀要電子化推進委員会報告

大迫章史第23-24期紀要電子化推進委員長より、資料3に基づき、作業の進捗状況及び今後の見通しについて報告がなされた。

4. 第25-26期役員選挙結果

栗栖淳前選挙管理委員長に替わり、田中達也前選挙管理委員より、資料4に基づき、選挙の実施状況及び選挙結果について報告がなされた。

5. 第25-26期理事会体制

(1) 新役員と会務分掌について

山崎直也事務局長より、資料5に基づき、第25-26期の役員とそれぞれの担当業

務について報告がなされた。

(2) 事務局体制について

山崎直也事務局長より、資料 5 に基づき、第 25-26 期の事務局とそれぞれの担当業務について報告がなされ、第 25 回会員総会の時点で未決となっている事務局幹事については、学会規則第 6 条第 8 項に基づき、岩崎会長が追って正会員から任命することが説明された。また、学会規則の名誉理事に関する規定（第 6 条第 6 項）の改定を本総会で審議することが提案された（⇒審議事項 5「その他」参照）

6. 第 25-26 期各種委員会体制

山崎直也事務局長より、資料 6 に基づき、第 25-26 期の紀要編集委員会、学会賞選考委員会、紀要電子化推進委員会の委員長、委員及び幹事が報告された。第 25 回大会総会の時点で未決となっている紀要電子化推進委員会委員及び幹事については、大迫章史委員長の提案に基づき、理事会が審議・委嘱することが説明された。選挙管理委員会は、第 26 回大会総会で選出される。

7. その他

特になし。

II. 審議事項

1. 2014 年度（2014 年 8 月 1 日～2015 年 7 月 31 日）事業計画

(1) 2014 年度活動計画（案）

山崎直也事務局長より、資料 7 に基づき、2014 年度（第 25 期）活動計画が提案され、原案通り承認された。

(2) 2014 年度予算（案）

山崎直也事務局長より、資料 7 に基づき、2014 年度（第 25 期）予算案が提案され、原案通り承認された。前年度からの変更点として、支出の部で交通費（事務局及び紀要編集委員会がいずれも地方に置かれることになったため）、大会開催補助費（例年不足傾向にあったため）、謝礼費（事務局作業の外部委託を当面行わず、アルバイトの雇用で対応するため）の項目が増額されている旨、説明があった。

2. 会計監査の選任について

自薦・他薦がなかったため、理事会より新井浅浩会員、黒木貴人会員が推薦され、承認された。

3. 2015 年春季研究会について

山崎直也事務局長より、2015 年は春季研究会を開催せず、その他の方法で若手会員の研究を奨励するとの理事会案が示され、承認された。

4. 第 26 回研究大会の開催校について

岩崎正吾会長より、第 26 回研究大会の会場校は現在調整中であるため、その最終決定を会長に一任し、決定事項をホームページ、ニューズレターで報告することが提案され、承認された。

5. その他

山崎直也事務局長より、日本国際教育学会規則第 6 条第 6 項の改正に関する理事会案

が以下の通り示され、原案通り承認された。

(旧) 名誉理事は理事会が委嘱し、任期は2年とする。名誉理事は、理事会に対し議案を直接提出することができる。その委嘱は会員の地位に関わりないものとし、原則として日本国籍と外国籍を同数とする。ただし、再任を妨げない。

(新) 本会は必要に応じて名誉理事を置くことができる。名誉理事は理事会が委嘱し、任期は2年とする。名誉理事は、理事会に対し議案を直接提出することができる。その委嘱は会員の地位に関わりないものとし、原則として日本国籍と外国籍を同数とする。ただし、再任を妨げない。

議長団解任

山崎直也事務局長より、議長団の呉会員、高山会員に謝辞が述べられ、議長団が解任された。

閉会の辞

佐藤千津副会長より閉会の辞があり閉会された。

5. 2013年度(24期)決算報告及び2014年度(25期)予算

日本国際教育学会 2013年度(24期) 会計決算・監査報告
(2013年8月1日から2014年7月31日)

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	3,010,618	3,010,618	
会費	900,000	840,000	正会員570000円、学生会員235000円、その他35000円(過年度分を含む)
利子	200	0	
紀要販売	30,000	78,168	既刊20冊(印税32冊分を含む) 新刊3冊
寄付金	0	0	
雑収入	0	0	
合計	3,940,818	3,928,786	

支出の部

費目	予算	決算	備考
交通費	100,000	52,118	事務局・紀要編集交通費補助
消耗品費	40,000	20,952	封筒代・文房具など
郵送費	100,000	74,721	紀要発送・メール便など
会合費	40,000	54,780	理事会会場費・弁当代
大会開催補助費	180,000	180,000	2013年度大会・春季研究会開催補助費
庶務費	60,000	28,459	振込手数料など
謝礼費	20,000	97,840	講演料・名簿作成作業・その他アルバイト
印刷費	700,000	673,300	紀要印刷650000円・ニューズレター印刷23300円
予備費	50,000	27,615	サーバー維持・管理費
雑費	0	0	前年度分繰り越し払い
次年度繰越金	2,600,878	2,669,001	
25周年積立金	50,000	50,000	2013年度分
合計	3,940,878	3,928,786	

25周年積立金

費目	予算	決算
前年度繰越金	200,000	200,000
今年度積立金	50,000	50,000
合計	250,000	250,000

次年度繰越金(収支-支出分)

	金額
郵便局【普通】	0
郵便局【会費納入用】	2,521,497
銀行【普通】	0
現金	147,504
合計	2,669,001

上記の通り報告致します。

2014年9月1日

事務局長

金塚 慧



監査の結果、正確であったことを認めます。

2014年9月2日

会計監査

宮本美能



2014年9月7日

会計監査

桑原 清



**日本国際教育学会 2014 年度(第 25 期)予算
(期間 2014 年 8 月 1 日～2015 年 7 月 31 日)**

収入の部

費目	予算	詳細
前年度繰越金	2,669,001	
会費	900,000	正会員×60口 学生会員×50口
利子	200	郵便振替口座利子
紀要販売	30,000	機関・個人購読 3000×10口
寄付金	0	
雑収入	0	
収入合計	3,599,201	

支出の部

費目	予算	詳細
交通費	200,000	事務局・紀要編集委員会・会計監査交通費補助など
消耗品費	40,000	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	紀要発送・メール便代など
会合費	60,000	理事会・紀要編集委員会の会場費・弁当代など
大会開催補助費	200,000	大会開催補助費
庶務費	60,000	コピー・振込手数料など
謝礼費	120,000	講演謝礼、事務局及び各種委員会アルバイト代など
印刷費	700,000	紀要印刷・編集費 650,000 ニュースレター印刷費 50,000
予備費	50,000	サーバー維持・管理費など
次年度繰越金	2,019,201	
30周年記念企画積立金	50,000	2014 年度分
支出合計	3,599,201	

30 周年記念企画積立金

前年度繰越金	250,000	2009 年度分・2010 年度分・2011 年度分・ 2012 年度分・2013 年度分
--------	---------	--

6. 2014-2015 年度 日本国際教育学会役員一覧

【理事会】

役 職	氏 名	所 属	担 当	国籍
会長	岩崎 正吾	早稲田大学		日本
副会長	佐藤 千津	東京学芸大学		日本
理事	江原 裕美	帝京大学	規程、学会賞	日本
同	大庭 由子	秀明大学	研究大会（第27回）	日本
同	岡田 昭人	東京外国語大学	広報	日本
同	小川 佳万	東北大学	紀要編集	日本
同	田中 達也	川口短期大学	事務局	日本
同	西村 貴之	北翔大学	ニューズレター	日本
同	羽田 積男	日本大学	規程	日本
同	福田 誠治	都留文科大学	研究	日本
同	前田 耕司	早稲田大学	研究、学会賞	日本
同	山崎 直也	国際教養大学	事務局	日本
同	若園 雄志郎	宇都宮大学	ニューズレター	日本
同	裘 曉蘭	上海社会科学院青少年研究所	国際交流	中国
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	国際交流、学会賞	台湾
特任理事	渡辺 幸倫	相模女子大学	研究大会（第26回）	日本

【事務局】

役 職	氏 名	所 属	担 当
事務局長	山崎 直也	国際教養大学	
事務局次長	田中 達也	川口短期大学	理事会
同	寺野 摩弓	国際教養大学	ホームページ
事務局幹事	呉 世蓮	早稲田大学（非常勤）	会計
同	西村 芳彦	早稲田大学（院生）	理事会
会計監査	新井 浅浩	城西大学	
同	黒木 貴人	広島文化学園大学	

【各種委員会】

役 職	氏 名	所 属
紀要編集委員会委員長	小川 佳万	東北大学
同 副委員長	渡部 孝子	群馬大学
同 委員	太田 浩	一橋大学
同	小山 晶子	名古屋大学
同	桑原 清	北海道教育大学
同	斉藤 泰雄	国立教育政策研究所名誉所員
同	平岡 さつき	共愛学園前橋国際大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
同 編集幹事	白幡 真紀	日本学術振興会特別研究員
学会賞選考委員会委員長	江原 裕美	帝京大学
同 委員	牛渡 淳	仙台白百合女子大学
同	前田 耕司	早稲田大学
同	森岡 修一	大妻女子大学（紀要編集委員兼任）
同	楊 武勲	国立暨南国際大学
同 幹事	工藤 瞳	日本学術振興会特別研究員
紀要電子化推進委員会委員長	大迫 章史	仙台白百合女子大学
同 幹事	高橋 春菜	東北大学（院生）

事務局だより

1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい。

所属変更等にもない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール（jies_jimukyoku@jies.gr.jp）にてご一報下さい。

2. 新入会員紹介

2013年度第2回理事会（2013年11月23日）、2013年度第3回理事会（2014年3月4日）、2013年度第4回理事会（2014年8月3日）、2014年度第2回理事会（2014年12月20日）で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。

※2014年度第1回理事会（2014年9月13日）は新規入会者なし。

氏名	所属	入会承認理事会
高橋 梢	東京外国語大学（院生）	2013年度第2回
水谷 東洋	東京外国語大学（院生）	2013年度第2回
村上 昴音	東京外国語大学（院生）	2013年度第2回
上野 昌之	早稲田大学（非常勤）	2013年度第3回
薩仁囃娜楽	早稲田大学（院生）	2013年度第3回
寺野 摩弓	国際教養大学	2013年度第3回
植田 啓嗣	早稲田大学（院生）	2013年度第4回
大森 豊	宇都宮大学地域連携教育研究センター	2013年度第4回
桑島 英理佳	宇都宮大学地域連携教育研究センター	2013年度第4回
児玉 珠美	名古屋女子大学短期大学部	2013年度第4回
新見 有紀子	Boston College Center for International Higher Education	2013年度第4回
斯 欽	名古屋大学（院生）	2013年度第4回
宋 群	大東文化大学（院生）	2013年度第4回
土崎 雄祐	宇都宮大学地域連携教育研究センター	2013年度第4回
米村 明夫	アジア経済研究所	2013年度第4回
劉 妍	東京外国語大学（院生）	2013年度第4回
林 葳	東京外国語大学（院生）	2013年度第4回
烏日吉木斯	お茶の水女子大学（院生）	2014年度第2回
張 任	山口大学（院生）	2014年度第2回
陳 振皓	山口大学（院生）	2014年度第2回

春季研究会についてのお知らせ

例年3月に開催しておりました春季研究会は2015年より行いません。これに伴い、春季研究会における自由研究発表の募集等はありません（第25回総会議事録をご参照ください）。

日本国際教育学会紀要『国際教育』第21号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第21号の発刊に際し、自由投稿論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2015年3月1日必着）。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿して下さい。なお、投稿原稿の募集に関しては、本学会公式ウェブサイト（<http://www.jies.gr.jp/>）の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

1. 投稿要領（論文・その他）

(1) 投稿資格

投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。

(2) 投稿論文（等）のテーマ

論文（等）のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。

(3) 投稿原稿の要件

- ① 投稿原稿は、口頭発表の場合を除き、未発表のものに限る。
- ② 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
- ③ 他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。
- ④ 前号に論文（等）が採用された者の連続投稿は原則として認めない。
- ⑤ 本投稿要領に反する原稿は受理できない。

(4) 投稿原稿の種類

- ① 研究論文：国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果であり、独創性のある実証的または理論的な論考。
- ② 研究ノート：論文に準じ、断片的に得られた研究成果や調査成果であり、特に新しい知見、萌芽的な研究課題、少数事例、新しい調査・研究方法、などの発見・提起に関する考察で発展性のあるもの。
- ③ 調査報告：国際教育に関する調査の報告であり、調査の目的と方法が明確で、なおかつ調査結果の分析と解釈が妥当で資料的価値が認められるもの。
- ④ 教育情報：国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報で、速報性と話題性の観点から研究上の価値が認められるもの。
- ⑤ 資料紹介：国際教育の参考となる資料の紹介であり、国際教育の研究と実践においてその資料を広く共有することの意義が認められるもの。

(5) 原稿の様式

- ① 原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5ポイントとし、A4判用紙を使用することとする。
- ② 和文、中文は、1行40字×40行（1,600字）で印字する。英文はダブル・スペース22行とする。

- ③ 執筆分量は下表の通りとする。

投稿原稿の別	ページ数制限
論文 (Research Paper)	和文 10 ページ以内 英文 23 ページ以内 中文 6 ページ以内
研究ノート (Research Note)	
調査報告 (Research Report)	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文 3 ページ以内
教育情報 (Research Information)	
資料紹介 (Data)	

- ④ 英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 4th Edition に準拠する。
- ⑤ 題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 字以内、英語の場合は 15 words 以内とする。
- ⑥ 原稿にはページ番号を付す。
- ⑦ 審査の公平を期するため、提出する原稿において「拙著」「拙稿」の表現や、研究助成や共同研究者・研究協力者等に対する謝辞など、投稿者名が判明するような記述は行わない。
- ⑧ 投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。

(6) 原稿送付方法

- ① 投稿原稿は、原稿と要旨を各 3 部（うち 2 部は匿名。複写可とする）提出する。電子ファイルのみによる投稿は受け付けない。
- ② 別紙（A4 判）に、投稿原稿種の区分、原稿の題目、氏名、所属・職名、連絡先（住所、電話、メールアドレス）を記入して 1 部添付する。
- ③ 和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4 × 1 枚以内。字数は上記規定に準拠する）を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。
- ④ 英文要旨にはその日本語訳を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。
- ⑤ 提出後の原稿の差し替えは認めない。また原稿は返却しない。
- ⑥ 投稿する論文（等）と内容の面で重複する部分を含む論文（等）を既に発表ないし投稿している場合は、その論文（等）のコピーを 1 部添付する。

(7) 原稿送付期限

投稿原稿は 2015 年 3 月 1 日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正のうえ再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。再審査の場合、定められた期間内での原稿修正の権利が与えられる。なお、採用原稿に関しては原稿（ハードコピー）とともに電子ファイル原稿（英文要旨を含む）も提出すること。

2. 問い合わせ先／原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会事務局
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1
東北大学大学院教育学研究科 小川佳万研究室気付
E-mail: ogawa@m.tohoku.ac.jp

ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS
CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 21

Submissions to the 21st edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2015. Authors making submissions in English should review the following guidelines. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<http://www.jies.gr.jp/>) before submission.

1. Conditions for accepting manuscripts

- (1) Manuscripts must be original work of the author(s).
- (2) Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not been published already, nor are they under consideration for publication elsewhere.
- (3) Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.

2. Submission

- (1) Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than twenty-three pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
- (2) Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. An electronic version should also be included.
- (3) A cover sheet should include the category of the manuscript (choose one from this list: research paper; research note; research report; research information; data), title, author's name, author's affiliation, mailing address, telephone/fax number, and e-mail address.
- (4) A completed manuscript should be submitted and it cannot be returned or replaced once submitted.
- (5) All English manuscripts must include a Japanese abstract that is no longer than one page in length (A4 size).
- (6) For pagination, use Arabic numerals.
- (7) The manuscripts should not have any textual references to the author(s). References to the author's names should be blacked out. The acknowledgements should not be included at the time of submission.
- (8) Electronic-only versions of manuscripts will not be accepted.

3. Style and format

For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association.

Example:

Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.

Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.

4. Decision to accept

All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient. Once the manuscript is accepted for the publication, author should submit the revised electronic version (including Japanese abstract).

5. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected.

Please send all submissions by postal mail to:

Dr. Yoshikazu Ogawa

Graduate School of Education, Tohoku University, 27-1 Kawachi, Aoba-ku, Sendai, 980-8576, JAPAN

Inquiries about the journal may be directed to Dr. Ogawa by e-mail (ogawa@m.tohoku.ac.jp).

日本国際教育学会第 26 回大会のお知らせ

実行委員長 渡辺幸倫

第 26 回大会は下記の通り開催することとなりましたのでご案内いたします。微力ではございますが、皆様にご満足いただける大会となるよう実行委員一同努力して参りますので、ぜひご参加・ご協力をお願いいたします。

日程	2015 年 9 月 12 日 (土)・13 日 (日)
会場	相模女子大学
アクセス	新宿駅から 小田急線相模大野駅 (急行 40 分、快速急行 30 分) 下車、徒歩 15 分 羽田空港から 神奈川中央交通リムジンバスでグリーンホール相模大野立体駐車場下車 (約 60 分)、徒歩 10 分 新横浜から JR 横浜線町田駅下車 (20 分)、小田急線へ乗り換え、相模大野駅 (2 分) 下車、徒歩 15 分

2015 Conference Information

26th Annual Conference:

September 12-13, 2015

Sagami Women's University (<http://www.sagami-wu.ac.jp/english/index.html>)

For more information visit our website <http://www.jies.gr.jp>

日本国際教育学会 Newsletter No. 26

編集発行 日本国際教育学会 代表 岩崎正吾

発行所 010-1292 秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2
国際教養大学 山崎直也研究室気付
日本国際教育学会事務局
jies_jimukyoku@jies.gr.jp
<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2015年1月31日